

鳥取、島根、岡山、廣島、山口の五縣の保育者約七百名が集つての盛典である。

三十日午前八時から受付が開始され、續々とつめかける保育者の群が、連絡船がつくたびに一團となつて會場へつめる。

九時すぎ開會、經過報告の後、中國保育連合會々則が上程され、修正なしに萬場一致を以て可決、役員選出、各縣より理事二名を選出することとなり、縣別にその選出をした。

全國保育連合會長倉橋惣三先生の祝辭を坂元彦太郎副會長が代讀し、知事市長等の祝辭があつた。内山憲尙事務局長の祝辭を兼ねた挨拶があつて十一時半式を終る。

午後は一時から廣島大學の長田新博士の「フレーベルに歸れ」と云う講演あり。保育は子供を知り、子供を生かし、自然の中に伸ばさなければならない、即ちフレーベルの保育を再認識して、フレーベルへ一度歸ることが新しい保育であると說かれて二時間の有意義な記念を終へられた。

閉會式は三時から講演に續いてなされ、青柳美智代事務局次長の挨拶があつて第一日を無事終了。

第二日目の三十一日は見學である。宮島口に三臺の自動車が待機している。五日市町の鈴峯園から廣島戰災児育成所を見る。整頓された部屋、よく清掃された居室、あかるい施設であつた。精神薄弱兒を收容する六方學園では恰度運動會當日で、子供たちが、嬉々として遊戯や競争をやつてゐる。田中園長から話を承り、廣島印刷株式會社の社内を見學して、

原爆中心地や兒童會館等を見て、一日の意義ある見學を終つた。(全保連事務局)

福井縣保育連盟大會

福井縣の保育連盟は昨年結成されて以來次第に數の増加を示して來て、幼稚園四十園、保育所三十數園となつた。今後益々增加の一途をたどりつゝあることは誠にうれしいことである。

質的面の向上を計るために、十一月二十一日總會を兼ねて研究會と、講演會とを神明幼稚園において開いた。九時から十時まで研究の保育參觀、神明幼稚園の保育を參觀する。カリキュラムを立つての熱心な保育である。續いて十時から研究發表に移り「リズムの指導と體驗」について久保久子教諭「子どものあそびについて」馬場美智子教諭の發表あり、共に體驗を中心として今日の研究保育に結びつけた發表であつた。何れも立派なもので松村伊佐武氏の指導のよさと各教諭の熱意がよく現れていた。十時五十分から研究討議に入る。村田明賴氏が座長となつて、研究發表や保育參觀についてのディスカッショニングあり、最初は一寸遠慮氣味であつたが、次第に活潑になつて來た。然し時間の關係で十二時になつたので一應切り上げて臨時總會に移る。松田民生部長の挨拶あり、野村榮太郎現會長が座長となつて會則變更其他が議された。午後一時より三時半まで内山憲尙氏の「新保育の理念と實踐」と題して明快なる講義を承る。保育の基礎から説き起し

て、保育内容の實際について話された。時間の關係で保育カリキュラムの問題にまで入られなかつたことは殘念であつた。人形劇の實演は大に参考になつた。

神明幼稚園は福井大學（前師範）の附屬幼稚園となつて居り、高木與次兵衛園長は小學校の主事で、東京高師に永らく居られた方、常に新しく正しい教育理想を持つて居られ、神明カリキュラムは全國でも有名である。これを助けるに松村副園長があり、絶えざる研究を續けて居られる。

戰災で焼かれ、地震での大痛界は次第に活潑せんとしている、馬場一兒童課長も熱心に指導をされているので量の上にも質の上にも發展することは豫則に難くない次第である。

(編輯部)

官廳公示連絡事項

ユニセフ寄贈ミルクによる 保育所給食の實施について

今般ユニセフ（國際連合兒童救濟基金局）の好意に基き我

が國の兒童に對して贈與された脫脂粉乳を以て保育所給食を十一月一日から實施することになつた。その對象はユニセフ本部から特に模範的給食施設として指定された札幌、仙臺、東京、横濱、新潟、名古屋、大阪、京都、神戸、廣島、松山、福岡の十二都市所在の保育所三十八ヶ所の幼兒五、〇〇〇人

ユニセフ給食栄養基準（一人一日）

品名	数量	熱量	蛋白質	金額	備考
脱脂粉乳	五〇g	一七九	一七八	一	ユニセフ給食
	二五	九〇	八・九	一、三三	政府特別配給
味噌	一〇	一五・八	一・二	〇、二〇	
醤油	五	二五・〇	〇・四	〇、四一	
砂糖	一〇	三九	一	〇、四六	
小麥粉	一五	五三	一・七	〇、五四	
澱粉	一〇	三六	一・三	〇、七六	
野菜	三八	一二・五	〇・七	〇、四七	
魚	二二	二七・二	四・〇	〇、六四	
燃料	二〇人につき二、五束	〇、九八	一束三元圓五錢		家庭又は施設
計	一九〇	五〇〇	三六	六、三九	

である。給食物資はユニセフから寄贈の脱脂粉乳一人一日五〇瓦を主體とし、これに政府特別配給の味噌一〇瓦醤油五瓦砂糖一〇瓦、油五瓦、小麥粉一五瓦、澱粉一〇瓦等の外都道府縣から野菜、魚介等の特別配給をしたり又施設の經營者が調達出来るものを以て充當しその營養標準量は、一日五〇〇カロリー蛋白質三六瓦で、日曜休日を除き、毎月平均二十五日、向一ヶ月間繼續實施の見込みである。而してこの給食の實施に當り給食の効果を測定し、その結果を利用して合理的な保健指導をするため兒童の體格検査、歯牙検査、及び情意性格觀察知能検査等を行うものであるが、これと同一市内の